



6月は“ジェンダー平等”で誰一人取り残さない社会をめざそう! 男女平等月間 —「第19回男女平等参画学習会」を開催—



写真左・右上/「あり」の団員のみなさんと参加者で意見交換
右下/公演の1シーン



連合鳥取は6月10日(土)、ハワイアロハホールに154人(うち女性61人、女性参加率39.6%)が集結し、「連合鳥取第19回男女平等参画学習会」を開催しました。

鳥取県西部を拠点に活動されている演劇集団「あり」の公演と、JP労組と情報労連から産別・単組での「男女平等参画の取り組み事例報告」を行いました。

【「パパがママになる日」

演劇集団「あり」

(あらすじ)
「性的マイノリティ」をテーマに、同一性障害を抱えるパパがママになっていく、また、2人の息子たち、地域や法律がパパをママとして認められるようになるまでの葛藤のお話。

監督を含め13人の団員が、①親子の絆と周りの人々の理解と協力の必要性、②法律のあり方、③人は対等・平等である、④いじめや差別をなくそう、などたくさんメッセー지가分かりやすく伝えられました。

この公演は、監督の添谷泰一さんが2003年にNHKの性的マイノリティをテーマにした番組を見たことをきっかけに作られ、実際に当事者の方の意見を取り入れ、その都度演出を変えられて

【公演・意見交換から抜粋】

■いじめ コップの中の水をいじめと例え、「暴力、ひどい言葉で水は縁ギリギリ。表面張力でなんとか保っているがあと一滴でこぼれてしまおう...」。1回のいじめで人の心は限界がくるわけではなく、積み重ねで追い込まれ、しんどい状態を保ち続けていてその時に傷つける一言、悲しくてつらい思いを我慢している中、たったその一言だけで気持ちは限度を超えてしまう。

●○らしさ 兄弟を演じたのは女性団員で、①役作りで男の子を演じるため日常生活からスカーフを履き続けていたが、だんだんとスカーフを履きなくなってきた、②演技が女性らしく、男の子っぽくない、などと指摘され続けしんどくなった。演技だけでも辛いの、当事者の方は日常的に世間の当たり前をいわれ続け、我慢し苦しんでいると感じた。

いるため、性同一性障害の方の気持ちや周りの方の葛藤をとってもリアルに感じられます。「笑い」がありながらも胸が熱くなる「涙」必須の劇で、人権について真剣に考えるよい機会となると同時に、「男性はこうあるはず、女性はこうあるべき」という価値観を押しつけず、その人の個性を尊重することの大切さを訴えています。

一公演知識—

- ①LGBTQの割合は、AB型や左利きの割合とほぼ同じ(約10人に1人)。だが周りの目を気にして言えないだけで、もっと多いかもしれない。
- ②「アライ(ally):LGBTを理解・支援する人」が問題解決に取り組み、より多くの人にとって生きやすい社会をつくることにつながる。
- ③広島サミット前日に「LGBT理解増進法案」が国会に提出された。

産別からの取り組み報告



JP労組 / 谷本 寛さん

「ジェンダーギャップチェックシート」の活用など報告



情報労連 / 金田慎一さん

「2024年度での目標達成」をめざした取り組みについて報告



第19回男女平等参画学習会参加者の声

全国農団労JA鳥取中央会労組 福田奈々江さん



「私たちはアライアンス(同盟)」私はこの言葉が一番印象に残った。
 私たちは、個人としても組織としても個性がある。個性を否定せず、よいところを出し合い、ともに同じ課題に取り組むアライアンスなのだ。同じ国、同じ県、同じ組織に集う仲間としてお互いをさらに理解し、それぞれの組織、個人の未来が今より少しでもよくなるために、身近な人が悩みを相談しやすい環境、そして、相談を受けたら、その悩みがどうしたら解決するのかをともに考え行動できる人や組織であることが大切だと感じた。

JAM明治製作所労働組合 日野浩和さん



最近、ニュースや新聞でよく目にする「LGBT」。正直、他人ごととして考えていた。
 しかし10人に1人がLGBTであること、偏見により生きるか死ぬかの思いまですている人がいることを知り、「他人ごとではまずいな」と演劇から真っ直ぐ伝わってきた。
 家に帰って、今回教わったことを子どもに得意気に話すと、「それ常識」といわれてしまった。最近では学校教育の中でも教わるよう。
 法律だけでなく人の意識が変わらないとよくなっていかない。みんなが互いを認め合う社会に向けて、いろいろ考えさせられる機会となった。

誰もが暮らしやすい鳥取県・働きやすい職場環境をめざして —鳥取労働局と鳥取県へ要請行動を実施—

6月2日(金)、連合鳥取は、鳥取労働局の平川雅浩局長に「雇用における男女平等に関する要請」「2023年度最低賃金行政に関する要請」を手交し、意見交換を行いました。

続いて、鳥取県庁において、「雇用と生活における男女平等に関する要請」を鳥取県の平井伸治知事(全国知事会長)に手交し、要請を行いました。

また、今年度は、鳥取市・倉吉市・米子市・境港市へ鳥取県と同様の要請行動を実施する予定です。

【参加者】田中穂会長 森由香里副会長 小谷くみこ執行委員(女性委員会委員長)
江口真也事務局長 河村正之の副事務局長 寺田真里副事務局長

—鳥取労働局—

■「雇用における男女平等に関する要請」

—鳥取労働局 平川雅浩局長に手交—

<田中会長発言(抜粋)>

雇用環境に関して、非正規雇用者への底支え、処遇改善の促進、就業環境の整備に努めていきたい。

<平川局長コメント(抜粋)>

非正規労働者における処遇改善については、同一労働同一賃金の観点からも取り組みを強化しなければならないと考えている。男女平等に関する重点方針として「雇用機会の確保と多様な人材の活躍支援」「誰もが働きやすい職場環境づくり」を掲げて取り組みを行っている。

<森副会長・小谷執行委員からの要望>

コロナ禍の影響を受けている女性労働者への支援や、子育てしやすい環境づくりを要請する。



要請書を手交
左から、平川労働局長、田中会長、森副会長、小谷執行委員

■「2023年度最低賃金行政に関する要請」

<田中会長発言(抜粋)>

最低賃金について、今回ランク分けが変わり、鳥取県はCランクとなり、近隣県との差を含め、今後の行方を注視していきたい。

<平川局長コメント(抜粋)>

最低賃金においては審議会等が円滑に行えるよう、情報収集や分かりやすい資料作成に努めていくとともに、賃金の引き上げができるよう事業者に対する各種支援の周知なども徹底していきたい。



意見交換の様子

—鳥取県—

■「雇用と生活における男女平等に関する要請」

—鳥取県 平井伸治知事(全国知事会長)に手交—

<田中会長発言(抜粋)>

鳥取県は全国でも先進的な雇用政策・女性活躍に取り組んでいる。是非、ともに取り組みを進めていきたい。また鳥取県は「LGBTQに関する研究会」を立ち上げると聞いている。多様性を尊重する取り組みを労働組合としても進めていきたい。

<平井知事コメント(抜粋)>

要請内容についてはともに取り組みを進めたい。コロナ禍により深まった雇用喪失や生活困窮への対応、不妊治療に関する対応、LGBTQに関する対応など、鳥取県としても対象者に寄り添った対応を図っていきたい。

<森副会長・小谷執行委員からの要望>

人口減少に歯止めをかけ、住みやすく暮らし豊かな鳥取県となるための施策、非正規雇用の女性が自信を持って働くことができるようにしてほしい。



要請書を手交
平井知事(右)に手交する田中会長(右から2番目)



意見交換の様子

連合エコライフ 2023 ピークカットアクション夏

- OA機器**
 - ①省エネモードを設定し、未使用時には電源をこまめに切る。
 - ②プリンター等の共有機器の使用台数を、必要最低限に。
 - ③仕事おわりには共有機器の主電源を切つて終了。できればテーブルトップの電源オフ。
- 空調 暑さ対策**
 - ①屋内、屋外等の職場環境に応じた服装の調整、クールビズの実践を。
 - ②扉やカーテン・ブラインドの使用、扇風機の活用で空調の効率化を。
 - ③こまめなエアコンのフィルター清掃などで、効率的に利用しよう。
 - ④熱中症対策をしながら節電に取り組もう。暑さ指数や各種アラートをチェックし、水分・塩分を補給しよう。
- 照明・明るさ**
 - ①昼休みや未使用時の事務所・会議室・トイレなどの、こまめな消灯を。
 - ②LED電球への買い換えや、可能な範囲で電球の数の間引きを。
 - ③目に負担をかけない範囲で明かりを抑えよう。
- 冷蔵庫(自動販売機)**
 - ①温度設定を控えめに(強にしない)。
 - ②扉の余分な開閉をせず、開閉時間も短く。
- フロア間の移動**
 - ①階段の利用を推奨し、エレベーターやエスカレーターの使用を最低限に。
- トイレ**
 - ①温水洗浄便座は、使用や温度設定を控えめに。
 - ②流水洗浄時と使用後は、便座のふたを開めて。

※暑さ指数…熱中症を予防することを目的に、人間の熱(ランス)に影響の大きい①気温、②湿度、③輻射熱の3つを取り入れた指標

第11回鳥取県労働・福祉事業四団体合同研修会を実施

6月13日(火)、鳥取県労働・福祉事業四団体【連合鳥取・(一財)鳥取県労働者福祉協議会・中国労働金庫鳥取県営業本部・こくみん共済coop鳥取推進本部】の役員20人が鳥根原子力発電所の視察を行いました。

中国電力鳥取支社長の藪根剛さんや原子力発電所の職員のみなさんに同行いただき、東日本大震災以降の徹底した安全対策や、テロ対策について説明を受けながら敷地内を見学しました。また、稼働前の第3号機の見学では、3グループに分かれ、原子炉格納容器の中まで入ることができ、原子炉の仕組みや安全管理について説明を受けました。



3号機の前で

鳥根原子力発電所ができた時代には、地域住民の理解を得るために、発電所の近くに誰でも入ることができるスポーツ施設や商店があったり、ときには社員の家族が参加するBBQが敷地内で実施されていたことを聞きました。



グループに分かれて見学

今は、視察で敷地内に入る場合だけでなく、現場で働いている人(関係会社を含め1日約3,800人)が仕事に入るときにも厳しいチェック体制がとられている様子を見ることができました。

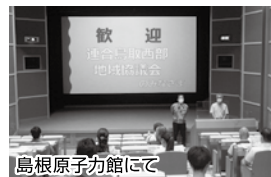
海外の燃料価格の上昇により電気料金が高くなってきています。今後もウクライナ事情等で高騰が予想される中、再生可能エネルギーの蓄電池の技術革新などで電気を安定的に供給していく努力と、原子力発電を安全に進めることで、エネルギー自給率のアップをめざしていくことが必要とのことでした。

西部地協発／西部地協幹事も鳥根原子力発電所を視察!

6月24日(土)、西部地域協議会は16人(構成産別13人、村上たいじろう県議会議員、事務局2人)の参加で鳥根原子力発電所を視察しました。

最初に鳥根原子力館にて発電の仕組みや安全対策について説明を受けた後、施設内を見学しました。その後、バスの車内から鳥根原発1号機～3号機を見ながら、施設概要や安全対策について説明を受けました。

昼食後、中国電力の井本寿弘部長と意見交換を行い、「原発が稼働したら電気代は安くなるのか?」、「使用済み核燃料の処理費や安全対策費も電気代から賄われるのか?」など多くの質問が出され、参加者の関心の高さが伺えました。



鳥根原子力館にて



意見交換の様子

西部地協発／資産形成はどうしたらいい? - 「青女フォーラム学習会」で学ぶ

西部地域協議会青女フォーラムは、6月8日(木)夕方、米子コンベンションセンターに構成産別から33人(うち女性4人)の組合員が参加して「学習会」を開催しました。

学習会のテーマは、「気付いた時が始め時! 積み立て投資で資産形成～貯蓄と運用のリスクに備える～」とし、中国労働金庫米子支店副支店長の福嶋敬さんに講演いただきました。



会場いっぱい参加者

冒頭、宮根拓也青女フォーラム委員長(JR連合)は、「物価高や定年延長など生活設計する上で様々なことが目まぐるしく変化する中で、老後も含めた資産形成をしなくては行けないと考えたときに投資をするという選択肢があるが、ちょっと怖いイメージがある。投資の基礎を学ぶことで将来を考えるきっかけとしたい」とあいさつしました。

青年層の関心が高いようで、みんな真剣に講演を聞き入っていました。



写真左/講師:福嶋副支店長

Information

※詳しくは、連合鳥取事務局へお問い合わせください。

「2023連合鳥取ピースウォーク」



◇メインスローガン◇ 「子どもたちに核兵器も戦争もない未来を」

地域	中央(東部)〔200人〕	中部〔100人〕	西部〔150人〕
実施日	7月29日(土)	7月27日(木)	7月29日(土)
場所	さざんか会館 大会議室	倉吉体育文化会館 大研修室	米子市文化ホール メインホール
内容	<ul style="list-style-type: none"> ◆平和行進 9時00分スタート 【鳥取駅南口→こくみん共済coop鳥取推進本部前→ドコモ交差点→さざんか会館】 ◆主催者あいさつ ◆オンライン平和学習 ひめゆり平和祈念資料館 展示ガイドツアー 	<ul style="list-style-type: none"> 18時30分開会 ◆主催者あいさつ ◆平和学習 講演「ウクライナ侵攻の現状(仮)」 講師:山田マリーナさん ◆エコキャップ回収 ◆平和行進 19時40分スタート 	<ul style="list-style-type: none"> ◆平和行進(親子パレード) 9時00分スタート 【米子市文化ホール前→JR米子駅前を通る1周(約1km)】 ◆主催者あいさつ ◆平和学習(子どもむけ) 「平和を考える授業」

3会場とも「アピール採択」「フードライブ」を実施します。



湯原俊二

— りょくひ 緑肥の想い —

次世代への責任。 32年間変わらない思い。

岸田政権は、5年間で43兆円の防衛予算の増加分の財源も、子育て支援の増加分の財源も明言せず先送りしました。現在の国・地方合わせた借金は1200兆円で、先進国で最悪な財政危機です。このままでは次世代に借金、負担を負わせる可能性が大きくなります。

私は、これ以上次世代に借金、負担を負わせることには反対です。まずは、税金の使い方を徹底して見直し、その上で大企業、富裕層が持つ株などの金融資産に応分の課税をすべきです。

また中央集権的国づくりでは、中央と現場で政策、税金の使い方に齟齬ができ、無駄が多くなります。地域のことは地域で決められる、税金の使い方も現場で決められるようにすることで無駄をなくせます。地域だけではできない外交、安全保障、金融、治安などを国が責任を持つ、地域主権の国づくりが求められます。



地域・子ども・デジタル特別委員会
地方分権一括法改正について質問
(2023.6.8)



中部地協「北条海岸清掃」に参加
(2023.5.13)



連合鳥取「推薦議員団会議」で活動報告
(2023.5.15)

※インターネットで **衆議院TV** → **湯原俊二** を検索ください。
過去の発言風景がご覧になれます。

湯原さんのホームページもご覧ください

湯原俊二



QRコードからも
つながります

“ザ・議員”

あきやま ともひろ 秋山 智博

鳥取市議会議員

○2023年2月定例会で質問

「特別支援教育の充実に向けて」(2023.3.8)

【質問】 下記①②について所見を尋ねる。

- ①小・中・義務教育学校の配慮を必要とする児童生徒は、令和2年度の13.0%で1,786人に対し、令和5年度は20%超えの見込みで、明らかに増加している。しかし、特別教育支援員は令和5年度も4年連続の67名であり増員が必要と認識する。
- ②また、通級指導の実態は不十分で行き届いておらず、解決を要する。

【答(教育長)】

- ①増員も含めて引き続き必要な確保に努めていきたい。
- ②入級待機児童生徒が令和2年度24名、令和3年度33名、令和4年度21名である。ニーズに対応できていない実態があり、本市の重点項目として適正な人員配置を、国・県に要望していきたい。



連合鳥取東部地協2023春季生活闘争勝利
総決起集会(2023.3.1)

つがわ しゅんじ 津川 俊仁

北栄町議会議員

○議員の仕事・議長の仕事

北栄町議会では、道の駅北条公園整備事業(町負担概算14億円)と、青山剛昌ふるさと館再整備事業(概算28.1億円)と、議員定数及び報酬等に関する調査特別委員会を設置しています。町長は、北条公園造成工事(1.6億円)や青山剛昌ふるさと館設計費を予算計上し事業推進をめざしますが、決めるのは議会です。議会の議決で事業が進みます。

議員定数と報酬特別委員会は、町民と議員と語る会を5会場で開催し、6月中旬に町民1000人アンケートを実施し、改選後の選挙では、定数(15人)と報酬の見直しをします。

DX*の推進では、タブレットを使い、連絡や情報共有の迅速化やペーパーレスを進め、議会改革を不断に進めています。

議長は、議会運営や日程調整、議員の相談にも応じます。町長と協調して国・県への要望活動も行いますし、中部ふるさと広域連合にも関わります。充実した日々の毎日です。



マラソンTシャツで、すいかのながいも健康マラソン大会をアビール

*DX= デジタルトランスフォーメーション

今年4月に、最低賃金の目安額区分が、これまでの4ランク(A・B・C・D)から、3ランク(A・B・C)になることが中央最低賃金審議会全員協議会報告として出された▼鳥取県は今年からCランクとなるが、全国最下位グループ(13県)の一つに変わりはなく▼隣の鳥根県は：とという、Bランクとなり、全国最下位グループから抜け出した。最低賃金額は確かに鳥取県よりも3円高い。また大きな企業も鳥取県よりは多いかもしれない。だが、鳥取県西部と鳥根県東部は同じ経済圏であり、通勤可能なエリアといえる。そのような状況の中、ランクに差がつくことで、鳥取県にとって、マインナスの影響は出ないのだろうかと危惧する▼超少子高齢化の流れの中で、労働力不足は更に深刻になっていくだろう。地域経済を維持・発展させるためには、個々の会社のことだけではなく、鳥取県的な視点が必要なのではないだろうか。

(町の電気屋さん)

てんてんてんてん



再生紙を使用しています